

# 埼玉トヨペット



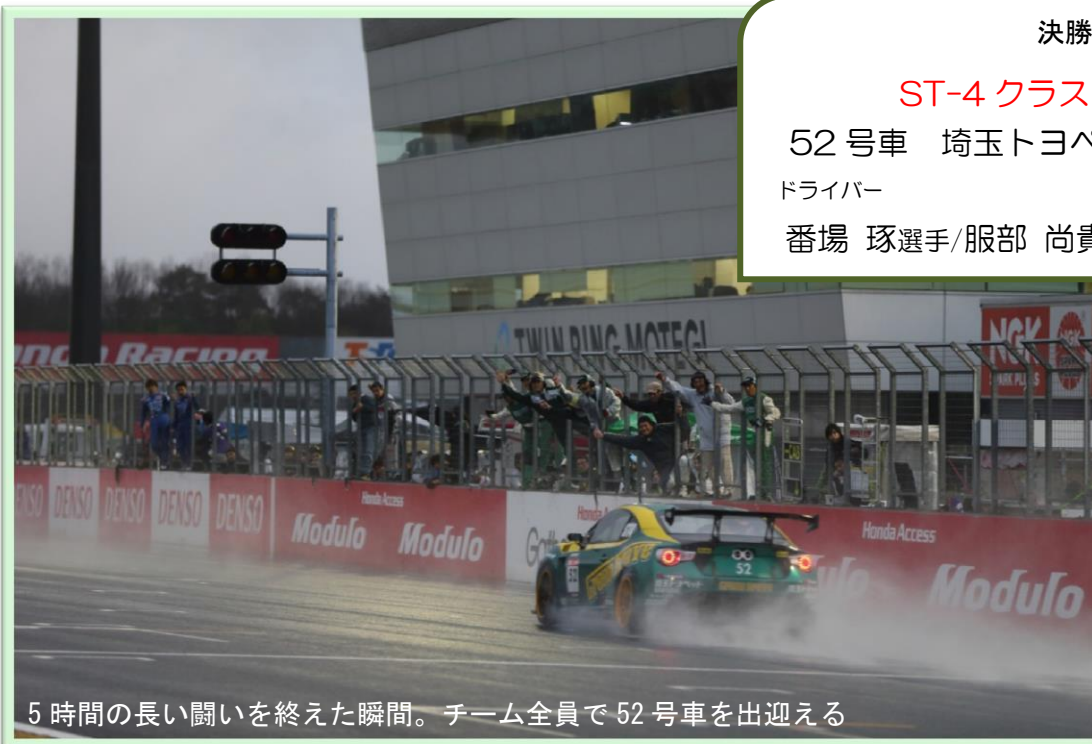
# Green Brave REPORT



2014年3月29日(土)・30日(日)

スーパー耐久シリーズ2014 第1戦 もてぎスーパー耐久(栃木県茂木町)

## 待ちに待ったオール自社チームでのデビュー戦 大雨の中5時間を確実に走り切り、5位完走



決勝結果

ST-4クラス 決勝5位

52号車 埼玉トヨペット GreenBrave

ドライバー

番場 琢選手/服部 尚貴選手/平沼 貴之選手

5時間の長い闘いを終えた瞬間。チーム全員で52号車を出迎える

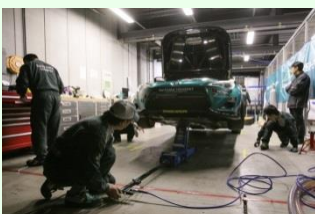
<3月27・28日>練習日……………木曜日から走り込みを開始。平沼選手もマイレージを稼ぐ

雨のオートポリスで行われた2013年11月のスーパー耐久最終戦から約5か月。埼玉トヨペット Green Brave (以下チーム)の2014シーズンは、ここツインリンクもてぎでの開幕戦でスタートした。昨年と大きく異なるオール自社チームでの参戦。シーズンオフの時間はすべてこの日のために費やしてきたと言っても過言ではない。昨年同様、モータースポーツ室(MS室)がチームを主導し、店舗から募ったサービスエンジニア(SE)と共にレースを戦う。ドライバーは埼玉トヨペット専務取締役である平沼貴之選手に加え、昨年スポットで参戦した番場琢選手、服部尚貴選手とおなじみの面々。マシンはもちろん、新カラーリングを纏った52号車のTOYOTA86だ。



カラーリングは、深みのあるグリーンに進化

店舗から6人のサービスエンジニアが参加した



チームは木曜日にもてぎ入り。マシンの準備やピットの設営に慌ただしくとりかかり、午後には練習走行を行う。SEの役割分担や作業を進める手順などをあらかじめ確認し、平沼選手のマイレージを稼ぐ。翌金曜日の練習走行は番場選手、服部選手も加わり、マシンのフィーリングをチェックし、必要なセットアップを施していく。金曜日の夜に万全を期してミッション交換を行ったが、それ以外は順調そのもの。予選への期待がますます高まった。

<3月29日>予選……………目標タイムに及ばないものの進歩を実感。完走する為の準備を黙々とこなす

予選日の天候は晴れ。気温はぐんぐん上がり、Tシャツ姿の人も見かけるほどの暖かさ。絶好のレース観戦日和だ。チームは木曜日にもてぎに入り、木、金と練習走行を行い、この日を迎えた。朝のウォームアップは平沼選手、服部選手、番場選手の順でドライブし、4番手の好位置につける。MS室の川尻監督以下、6人のSEも自分の役割を理解し、テキパキと仕事をこなしていく。



2014年1発目のピットウォーク。天気も良くサインを求める行列ができた

午後1時から公式予選がスタート。Aドライバーの番場選手、Bドライバーの服部選手がそれぞれ20分ずつのタイムアタックを行ない、その後Cドライバーの平沼選手が15分間のアタック。スーパー耐久のスターティンググリッドはA、B各ドライバーの合算タイムで決まるのだが、合算タイム4分22秒046で見事クラス5番手。86勢では86号車GAZOO Racing SPIRIT86に続く2番手だ。気温が高く悪条件だったが、昨年のもてぎラウンドの予選タイムと比べて合計で3秒以上短縮しているし、5番グリッドからのスタートは悪くない。平沼選手も15分のセッションをトラブルフリーで走り切り、ホッとした様子。練習日から走り込んできた成果が表れているようだ。

安全に走り切るため運  
くまで点検作業が続く



予選終了後、ピット内ではSEによるマシンメンテナンスを行った。やるべきことを紙に書き出してひとつひとつツブしていく。決勝日の天気予報は波乱を呼ぶ雨。誰もが無事5時間を走り切ることを考え、それぞれの仕事をこなしていた。この日はピット内を全員で清掃して終了。

<3月30日>決勝……………難しいコンディションの中、ノーミスで着実にポジションをアップ

明けて日曜日。天気は予報通り雨。それも相当強く降っている。朝8時からウォームアップ走行がスタートし、52号車は番場選手、平沼選手の順で走行する。昨年は決勝レース直前に電気系のトラブルが発生しただけに、マシンのチェックに余念がない。「何が起こるか分かりませんので備えをしっかりとやっています」と岩田チーム代表。レースとはいえ、クルマを最後まで無事運ぶのが、ディーラーとしての埼玉トヨペットの究極の目標なのである。



大応援団が結成され、グランドスタンドから戦いぶりを見守る

決勝でも終始安定した  
ペースで走り切った



11時45分、決勝準備。スタートを務める番場選手が5番グリッドにゆっくりマシンを並べる。そして12時15分、2周のフォーメーションラップの後、シグナルはグリーンに。5時間レースの火蓋が切って下ろされた。猛烈な水煙をあげて1コーナーに突入するマシンたちは、大きなアクシデントもなくオープニングラップを終える。52号車は6番手付近を走行。S2000やインテグラなどホンダ勢とバトルを繰り広げている。

固唾を飲んでモニターを見守るチームスタッフたち。その後もST-4クラスのマシンと順位を入れ替えながら、力強くラップを重ねる52号車。そしてスタートから約2時間を過ぎた頃、番場選手がピットに入り、平沼選手にバトンタッチ。一瞬の早技でマシンを送り出すSEたち。昨年は予選のみの走行だったため、これが平沼選手の事実上のスーパー耐久デビュー戦となった。コース上には川ができていて、油断するとプロドライバーでも即スピンという状況だったが、約30分近くの走行を無事終えて服部選手にバトンタッチ。順位はいったん下がったが、安定したラップを刻み、6番手まで浮上。最後の1時間は再び番場選手がドライブし、5番手までポジションを上げてチェッカー。難しいコンディションの中、チーム全員がノーミスで戦い、手に入れたリザルトだ。レース後は、応援に駆け付けた拠店長45人を交えてのフォトセッション&ハイタッチ。5時間の長丁場を戦った心地よい疲労感をチーム全員が感じていた。



合計3時間以上ドライブした番場選手を全員で迎え感動のフィナーレ

新体制でのチームのデビュー戦を5位完走で締めくくった埼玉トヨペット Green Brave。次戦は5月25日(日)決勝のスポーツランド菅生(宮城県)まで待たなければいけないが、その間も絶え間なく進化を続けていく。クルマの楽しさを自ら感じ、多くの人に伝えていくために。

Voice From Drivers&Team Principal

シーズン初戦としては100点満点と言っていいレース。平沼選手がミスなく走り切ったのは凄いいし、私もパワーをもらいました。今回完走という結果を出せたので、次戦の菅生ではさらに上位でゴールできるよう頑張りたい。(番場 琢選手)

雨が強く非常にリスクの高いレースでしたが大きなトラブルもなく、まずはしっかり完走することができました。表彰台に登ればさらに良かったのですが、それは次のレースにとっておきたいと思っています。(服部 尚貴選手)

雨が一番強い時に乗ったので、とにかく怖かったです。服部さんに無事クルマを渡す事だけを考えて慎重に走りました。今回は無事に走り切る事が出来たので、次はライバルと競うということを勉強したいです。(平沼 貴之選手)

ミス無く終えられてホッとしました。安全第一&完走という目標を達成し、ポイントも獲れました。SEのまともにもよく、働きぶりも頼もしかった。次戦では新しい人にも加わって頂き、盛り上げていきたいですね。(チーム代表:岩田勝俊)